

貧困の連鎖を断ち切る

横浜市会議員 こんの典人

今回は、子どもの貧困対策の一つ「寄り添い型生活支援事業」を取り上げます。

■生活習慣を身につける

この事業は生活困窮やひとり親家庭で、養育環境に課題がある家庭の子どもを対象に取り組み、手洗い、歯磨き、簡単な

調理、掃除などを教え、宿題や復習の習慣を身につけさせる事です。子どもや親への相談も行います。開設された場所では一人の子どもが週2回利用しています。平成28年度は市内で157人が登録し、延べ利用回数は1万300回を越えています。

れ、特にひとり親家庭の状況は厳しいと言われてきます。「貧困ライン」とは、世帯の収入から税金等を引いた使えるお金が、全調査の中央値の半分(約122万円)に満たないラインです。

の見本は親です。親の行動や考え方が子どもの当たり前になります。場合によっては放っておくと状況が悪くなります」とのことでした。

一人の子どもの週2回利用しています。平成28年度は市内で157人が登録し、延べ利用回数は1万300回を越えています。

■放置は状況を悪化させる
子育てや躾は基本的には親の責任です。しかし、現実には日々の仕事や生活に追われたり、病気を抱えているなど、養育環境が整わないケースがあります。支援スタッフからは、「子どもにとって

■早期に全区への拡大を
寄り添い型生活支援は、貧困の連鎖を断ち切り、自立するきっかけをつくる事業と言えます。市内に10カ所開設されており、今年度は12カ所に拡大する予定ですが、早期に全区への拡大が必要です。

■4万4千人が貧困

横浜市の場合、4万4千人(7.7%/平成25年調査)の子どもが国の貧困ラインを下回る水準で生活していると推計さ

らば、「子どもにとって

民進党横浜市議員
こんの典人事務所
緑区鴨居3-1-14-105
☎045-929-3030
☎045-342-4330
✉konno@konno-norito.com
http://konno-norito.com/
市民相談を受け付けています。お気軽にご連絡下さい。

